小池誠展 ―生命･いのちを見つめて―
2010.9/18(土)～11/28(日)

須玉美術館

須玉美術館外観

チラシ「あいさつ」

どこからともなく温かい光が降り注ぐ空間。そこで繰り広げられる生き物たちの営み。小池誠の作品には、いつも生命への深い洞察が感じられる。画面からは、祈りにも似た生命への讃歌が聞こえてくる。

1957年、長野県喬木村に生まれた小池誠は、設計士を目指していた18歳の時、突然骨肉腫を発病、左足を切断した。再発、転移、再々発…。生存率数%の絶望の淵にあって、「自分はどうして生まれてきたんだろう?自分の存在意義は、生きるとは、宇宙の真理とは…?」と求め続け、宇宙や自然を見つめ、宗教や哲学、思想を必死で学ぶ。

「生きている間に、この世の真理を表現したい」。闘病生活の中で小池は絵を描くことに活路を見出した。あらゆるジャンルの絵を模写し、独学で技法を学んだ。当時の画帖にはスケッチやメモがぎっしりと描き込まれ、鬼気迫るものがある。絵の具代にも事欠くような生活の中、ままならない体で自立するには絵しかないと、すさまじいまでの強い意思で試行錯誤を繰り返し、ミクストメディア(混合技法)による今の作風を確立した。完成した作品は最も相応しい額に入れられるべく、自ら額も制作する。

本展では、宇宙と自然と人間の探求を原点として出発した小池誠の作品と資料約40点を通し、これまでの道程を明かにすると共に、「生命･いのちの役に立ちたい」とする小池誠の未来への展望も探る。

須玉美術館学芸員　金澤 志保

ポスター・チラシ 表面

チラシ 裏面

会場入り口「ごあいさつ」

入り口ボード

須玉美術館では、この秋、企画展として「小池誠―生命・いのちを見つめて―」を開催する運びとなりました。

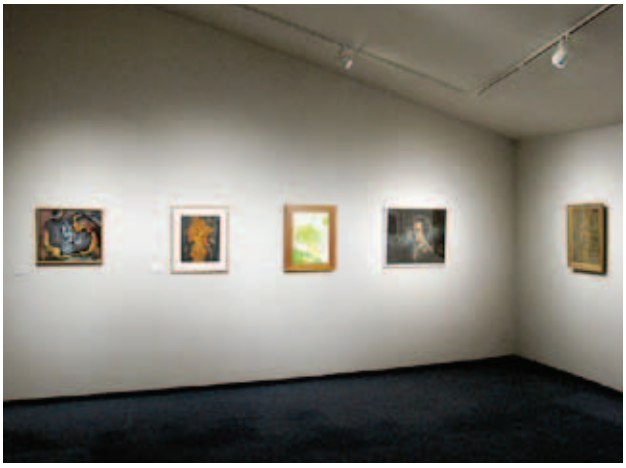
小池誠は長野県喬木村在住の画家です。18歳で発病した骨肉腫を克服し、闘病生活の中、独学で絵画技法を学び始め、試行錯誤の末、ミクストメディア（混合技法）による独自の画風を確立しました。

本展では、作品と資料約40点を展示し、小池誠の半生を振り返ります。宇宙と自然と人間の探求を原点として出発した初期の作品から、理想郷を思わせる絵画空間が観る者を温かく包み込む現在の作品まで、小池誠の世界を存分にご堪能ください。

須玉美術館

会場風景

会場 入り口



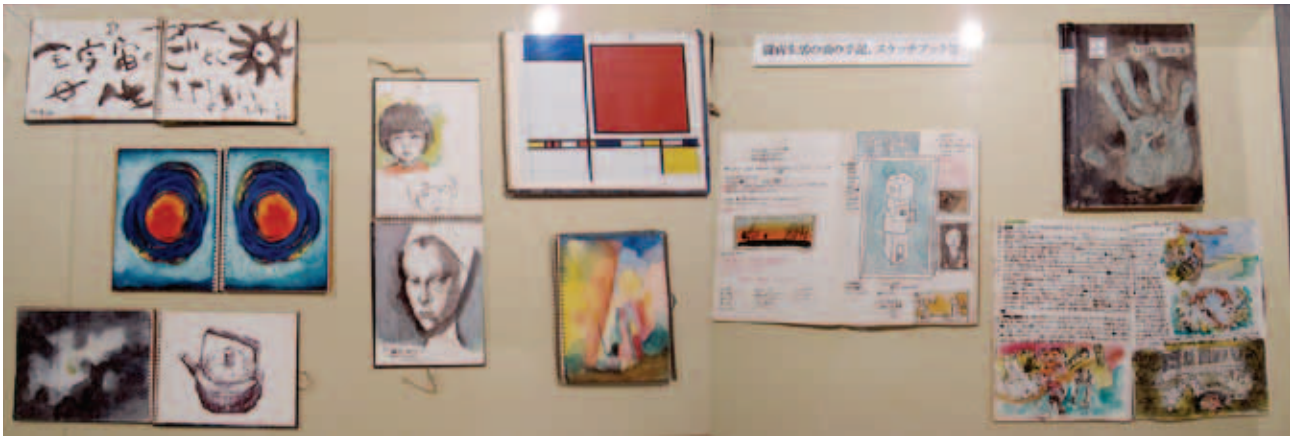
20代の頃の作品

30代の頃の作品

40代の頃の作品

50代初期の作品

資料展示



闘病生活の頃の手記、スケッチブック等

本画の下書きとメモ等

作品が使用された雑誌等

小池誠展 ―生命・いのちを見つめて― 鑑賞の手引き

どこからともなく温かい光が降り注ぐ空間。そこで繰り広げられる生き物たちの営み。小池誠の作品には、いつも生命への深い洞察が感じられる。「一隅を照らす」という言葉を知り、以来そのモチーフで、光がさしているように描くのだという。「光がある、それは温かくて、きれいで素敵なこと」。画面からは祈りにも似た生命への讃歌が聴こえてくる。

1957年、長野県喬木村に生まれた小池誠は、設計士を目指していた18歳の時、突然骨肉腫を発病し、左足を切断。当時は制癌剤もなく、転移を防ぐことができずに20歳で再発。左肺を手術した。生存率数%の絶望の淵にあって、死をも覚悟した。「自分はどうして生まれてきたんだろう?自分の存在意義とは、生きるとは、宇宙の真理とは…?」。宗教や哲学、思想を必死で学ぶ。「生きているだけでもありがたい」。毎日の何気ないことにも感動した。生と死を理屈ではなく体そのもので感じ、ささやかな生命が限りなく尊く愛おしく思えた。

闘病生活の中で絵を描き始め、生きている間にこの世の真理を絵に表現したいと、描くことに活路を見出した。図書館に通い、美術館を巡り、あらゆるジャンルの絵を模写し、独学で技法を学んだ。当時の画帖にはスケッチやメモがぎっしりと描き込まれ、鬼気迫るものがある。偉い先生とも知らずに「絵を見てくれ」と突撃訪問し、憮然とされたこともある。絵の具代にも事欠くような生活の中、ままならない体で自立するには絵しかないと、すさまじいまでの強い意思で試行錯誤を繰り返し、ミクストメディア(混合技法)による今の作風を確立した。完成した作品は最も相応しい額に入れたいと、自ら額も制作してのける。28歳で再々発するも、右肺を手術し、完治。「肉体的には貢献できなくても心で貢献したい」と新境地に至り、以後、様々な美術展で入選してきた。

彼は言う。

「真理は変わらない。生命ある限り、未知なる世界を探求し、そういうものを創造・表現していきたい」

「日本人は剣道や茶道など『道』を通して人として大切なことを学んでいる。手段は違っても目指しているものは同じ。宇宙の真理を知り、人間として正しい生き方を学び実践する。自分に負けずに正しく生きていく」

「祈りを大切に、生命・いのちの役に立ちたい」

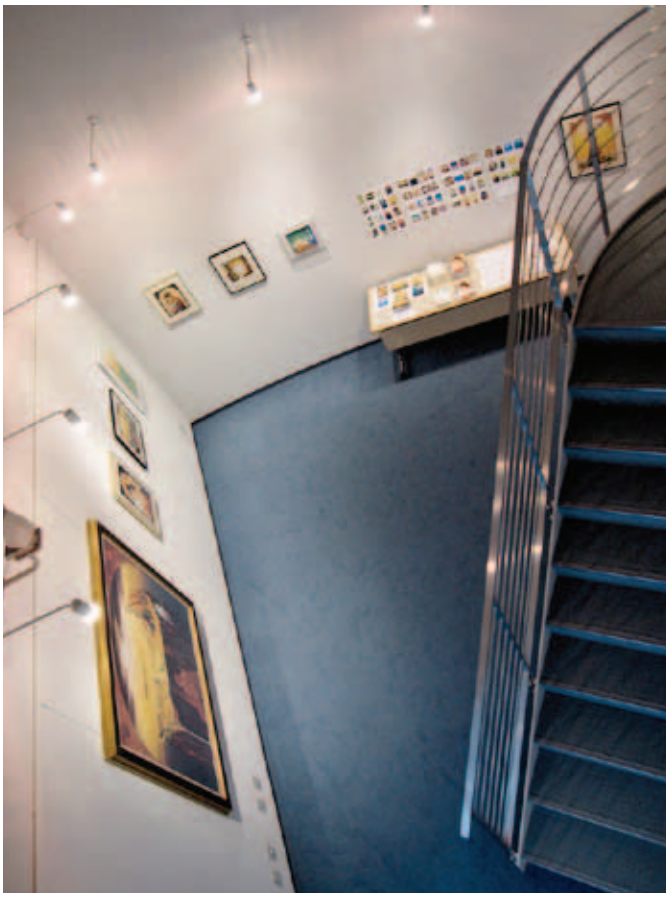
宇宙と自然と人間の探求を原点として出発した小池誠の作品。これからの進展にも期待したい。

2010.9.18～11.28

小池誠展 —生命・いのちを見つめて— 出品作品リスト

作　者	作品名	制作年	形　質	備　考
小池 誠	恐れ	1980	パネル、紙、鉛筆、水彩絵具、日本画絵具	
小池 誠	自画像	1980	ベニヤ、テンペラ用麻布、墨、日本画絵具	
小池 誠	花菖蒲	1981	紙、インク、水彩絵具、アクリル絵具	1995年加筆
小池 誠	自画像	1981	パネル、麻紙、日本画絵具	
小池 誠	法	1982	パネル、テンペラ用麻布、混合技法	
小池 誠	命の感触	1985	紙、混合技法	
小池 誠	刻命	1986	紙、テンペラ用麻布、混合技法	
小池 誠	パッパラパッパラ	1987	パネル、テンペラ用麻布、油彩	額自作
小池 誠	空	1987	パネル、紙、麻布	額自作
小池 誠	構	1989	パネル、ベニヤ、藁、古材等、混合技法	額自作
小池 誠	無	1987	パネル、紙、麻紙、混合技法	額自作
小池 誠	夢の塔	1988	パネル、紙、ベニヤ、テンペラ用麻布、混合技法	額自作
小池 誠	母子像	1990	ベニヤ、テンペラ用麻布、混合技法	額自作
小池 誠	生命の楽園	1991	パネル、紙、ベニヤ、テンペラ用麻布、混合技法	額自作
小池 誠	慈愛	1992	ベニヤ、テンペラ用麻布、混合技法	額自作
小池 誠	生命の声（35-1）	1992	パネル、紙、混合技法	額自作
小池 誠	未来への伝言	1993	パネル、紙、混合技法	額自作
小池 誠	こころの形	1994	紙、混合技法	
小池 誠	宇宙の声	1994	パネル、紙、混合技法	額自作
小池 誠	村作り	1999	パネル、紙、混合技法	額自作
小池 誠	生命賛歌	2001	パネル、紙、混合技法	額自作
小池 誠	道標	2002	紙、混合技法	
小池 誠	丘の春	2003	パネル、紙、混合技法	額自作
小池 誠	生命の譜	2003	パネル、紙、混合技法	額自作
小池 誠	春の声	2004	パネル、紙、混合技法	
小池 誠	生命の声（48-1）	2005	パネル、紙、混合技法	額自作
小池 誠	冬木	2006	紙、混合技法	
小池 誠	翼	2007	パネル、紙、混合技法	額自作
小池 誠	海華	2007	紙、混合技法	
小池 誠	秋宴	2007	紙、混合技法	
小池 誠	羅針盤のある家	2009	パネル、紙、混合技法	額自作
小池 誠	蓮（52-1）	2009	パネル、紙、混合技法	額自作
小池 誠	生命を運ぶ家	2010	パネル、紙、混合技法	額自作
小池 誠	行	2010	ベニヤ、テンペラ用麻布、混合技法	額自作

※都合により展示作品を変更することがあります。
　ご了承ください。

須玉美術館

ショップコーナー